

枕崎市 令和5年8月号 地域学校協働活動だより

パソコンで検索 **枕崎市地域学校だより** 検索

スマホで読み取り



発行
枕崎市
教育委員会
生涯学習課

「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取り、パソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～4年振りに地域野球の歓声が戻る～ 第68回枕崎市少年野球大会

開催され、市内各地域の小学生で結成されたチームが熱戦を繰り広げました。

参加チームは6チームと少ないでしたが、公民館単独の3チームに加えて近隣の公民館同士の合同チームが3チームで、それぞれ地域での練習を重ねて大会に参加しました。

決勝は別府混成チームと俵積田チームの別府同士の対決となり、接戦を制して別府混成チームが勝利し、優勝の栄冠を勝ち取りました。（別府混成チーム：西白沢、板敷、中原、茅野、下山、駒水、真茅の7公民館の混成チーム）

今年は大会に向けて、地域おこし協力隊の今愛沙さん（元埼玉西武ライオンズ・レディーズ所属）による練習指導の募集を行いました。大塚チームが指導を受け、6年生不在のチームながらも4位の好成績を収めました。

大会結果は次のとおりです。優勝 別府混成チーム、準優勝 俵積田チーム、3位 大塚・下野原チーム、4位 大塚チーム

枕崎市自治公民館連絡協議会主催の少年野球大会が7月29日、30日の日程で4年振りに



～夏休み青少年講座 第1弾 楽しい科学工作～ 枕崎地区公民館

枕崎地区公民館の夏休み青少年講座第1弾「楽しい科学工作」が、7月22日に開催され、「枕崎おもちゃ病院」院長の松岡隆次郎さんと仲間の方々が、「単極モーターで回るおもちゃ」の作り方を指導してくれました。

単極モーターとは、乾電池に磁石を取り付けて作るシンプルなモーターですが、磁界の中に電流が流れることでモノを動かす力が働きます。このモーターの上下に銅線を付けると回るおもちゃを作ることができるのです。

当日は8人の児童が参加しましたが、単3アルカリ乾電池の下にネオジム磁石を取り付けた後、銅線が回るように工作するのにみんな苦労していました。最初はなかなか上手く回らなかった子供たちも、工夫して銅線の形を作って回るようになりました。

銅線が回るようになると、様々な飾りを付けて科学工作を楽しんでいました。



完成した「単極モーターで回るおもちゃ」



単極モーターについて説明する松岡さん

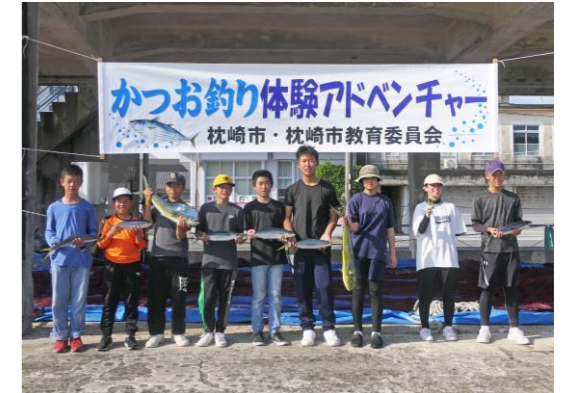
～中学生が水産高校の実習船で洋上体験～ かつお釣り体験アドベンチャー

体験できる、中学生を対象とした夏休み中の行事です。今年で32回目になります。

鹿児島水産高校の協力で実習船「拓青（たくせい）」に乗り組み、枕崎港から外洋に出て屋久島の西隣の口永良部島近海まで「かつお」を追って一本釣り漁を体験するという、まさに枕崎ならではの内容になっています。

今年も「船内での安全確保」などの事前研修を経て、市内の中学生9人が7月25日早朝に「拓青」に乗り組み、枕崎港を出港して本研修に取り組みました。

当日は晴天に恵まれましたが、波のうねりが少しあり、生徒たちは熱い日射しを受け、船酔いと戦いながら、かつお釣りに挑戦しました。釣った魚の数は少ないでしたが、カツオやツムブリ、大きなシイラなど、14匹の釣果があり、夏休み中の貴重な体験になりました。



釣り上げた魚を持って笑顔で記念のポーズ

～読書感想文書き方教室を開催～

本は自分で選んでね！ 市立図書館

枕崎市立図書館の読書感想文書き方教室が、7月20日に行われ、朝田栄子館長が色々な本を紹介しながら、読書感想文の書き方のヒントを次のように話してくれました。



読書感想文の書き方を教える朝田館長

- ・読書感想文を書くときに一番大事なことは、「自分が面白いと思った本」「自分の大好きな本」を選ぶことである。
- ・絵本でも読書感想文が書ける。絵本の中にも読書感想文の課題図書になっている本もある。
- ・自分で選んだ本を何回も読む。読んで自分が面白かった、驚いた、なるほどと思った所などに「ふせん」を貼ってみる。
- ・本を全部読み終わった後で「ふせん」の所を見て、「何が面白かったんだろう」「自分はどういう気持ちだったんだろう」と考えてみる。
- ・タイトルも作品のうち。自分の感じたことを題名にしたほうが良い。

また、参加者それぞれが、「だれが」「どこで」「どうした」を考えて、それを組み合わせて文章を作るゲームをしましたが、自分で言葉を作る練習もできて、大盛り上がるのゲームになりました。その後は、文章に飾りを付ける表現などをみんなで考えたりして、読書感想文の書き方の大きなヒントをもらった時間になりました。

～六月灯の灯籠を作って神社に奉納～ 金山地区公民館

月灯には子供たちが灯籠を奉納し、地域総出のお祭りで賑わいます。

昨年まではコロナ禍で灯籠の奉納だけでしたが、今年は地域の方々の尽力で「焼鳥」「焼とうもろこし」「わたあめ」などの出店も復活して、お祭りの賑わいが戻りました。

金山地区公民館では、6月の青少年講座で小学生5人が大人と一緒に六月灯の灯籠づくりを行い、7月29日の大山祇神社の六月灯には子供たちが灯籠を奉納して無病息災を願いました。

金山地区の「大山祇神社（おおやまづみじんじや）」は、通称「金山神社」と呼ばれ、毎年7月最後の土曜日の六



子供たちが神社に灯籠を奉納

「わたあめ」は自分で作ります